年の大洪水。水没した役場通りを舟で移動する人たち

水害

地域を地域が守る

本宮の発展の歴史は、水害との戦いの歴史である。そう言っても大げさでないほど、本宮はこれまで多くの水害を経験し、その度に対策を講じてきました。記録に残る最も古い水害は、元禄7年（1694年）9月に発生した洪水です。（曽我伝吉著『本宮地方年代記』）そこから数え、現在までゆうに50を越える水害が本宮を襲ってきました。その多くは市内を南北に流れる阿武隈川とその支流の安達太良川の氾濫によるものでした。日常風景の一部であり、かけがえのないこれらの川は、私たちに豊かな恵みを与えるとともに、ときには自然の猛威をふるってきたのです。

現代。先人たちの涙ぐましい努力により堤防や護岸が整備され、洪水が起こるリスクが大幅に低くなりました。しかし、「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉があるように、今後水害が起こる可能性はゼロとはいえません。

また、注意が必要なのは、河川越水による災害ばかりではありません。近年多発している局地的大雨（いわゆるゲリラ豪雨）など新たな水害も登場してきました。特にこれからの7月・8月・9月は梅雨前線や台風により大雨が降る可能性が高くなっていきます。

いざという時に私たちが備え、対応できることはなんでしょうか。ここでは、過去を振り返り、現在の特徴を知ることで、「地域を地域が守る」という取り組みを考えていきたいと思います。

― 阿武隈川・安達太良川の水害 ―

― 河川改修の歴史 ―

明治23年（1890年）8月7日
未曾有の大洪水、水位10.36㍍
本宮町戸数1,000弱のうち流失111戸、
潰家61戸、浸水817戸であった。

明治15年（1882年）
安達太良川に本宮橋が架かる

明治41年（1908年）
上の橋が架かる

大正2年（1913年）8月
本宮橋崩壊、3橋（上・中・下）が流失

大正2年（1913年）8月
原敬内務大臣が水害視察

大正9年（1920年）10月
上の橋流失

大正12年（1923年）6月
下の橋流失

大正12~14年（1923~25年）
安達太良川の樋門工事、阿武隈川の護岸工事

◀昭和16年。安達太良川の堤防補強をする警防団

昭和2~6年（1927~31年）
阿武隈川築堤・護岸工事、上の橋・下の橋を架け替え。
下の橋は鉄筋コンクリート橋に（昭代橋と改称）

昭和8年（1933年）
本宮橋を鉄筋コンクリート橋に架け替え

昭和11年（1936年）
安達橋（中の橋）を鉄筋コンクリート橋に架け替え

昭和16年（1941年）7月21日
大洪水、水位9.38㍍
堤防が決壊、上の橋が流失。
被害戸数1,163戸であった。

昭和18~26年（1943~51年）
安達太良川築堤・護岸工事

昭和23~34年（1948~59年）
阿武隈川の洪水の原因の1つとなっていた
川の狭窄部（川幅が狭い箇所）の掘削工事を行う

◀昭和61年8·5水害
水に飲み込まれるまち

昭和32年（1957年）
上の橋を鉄筋コンクリート橋に架け替え（現在の上の橋）

昭和60年（1985年）
昭代橋を架け替え（現在の昭代橋）

昭和61年（1986年）8月5日
昭和16年以来の大洪水、水位8.48㍍
床上浸水717棟、床下浸水314棟。
被害総額は13億5,000万円

昭和61年～平成2年（1986~1990年）
8・5水害を受け激甚災害に指定
安達太良川の築堤、本宮橋・安達太良橋の架け替え。
ふれあい橋の新設。阿武隈川の築堤工事を行う

平成10年（1998年）8月27日
大洪水、水位8.39㍍
床上浸水98棟、床下浸水160棟。
被害総額は2億9,900万円

平成10~12年（1998~2000年）
平成の大改修概成。阿武隈川右岸築堤（暫定堤防）工事

平成16年（2004年）
安達橋（中の橋）の架け替え（現在の安達橋）

◀完成した堤防からの眺めを楽しむ人たち

※過去の水害のうち一部を抜粋

平成20年～（2008年～）
阿武隈川の左岸築堤工事が始まる

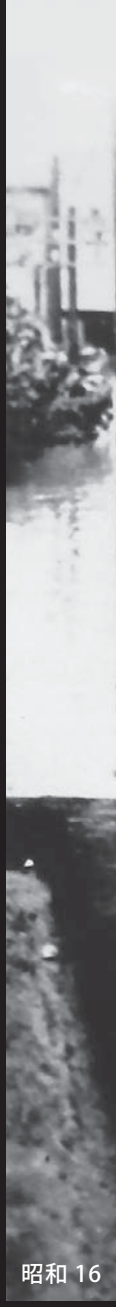
高木地区を水害から守る会 代表
根本 行夫さん

■脳裏に焼き付く当時の記憶

昭和16年の洪水の時は11歳でした。当時大玉村に住んでおり、本宮での被害を耳にし、様子を見に行ったとき、高木の根岸の竹藪から戸崎に当時あった湯屋の所まで水没し湖になっていたことを覚えています。

昭和61年の8・5水害の頃は既に高木に移り住んでいました。家の浸水は1．5メートルまで達し、避難先から戻ったときには、建具は全て外れ、中はガチャガチャになっていました。平成10年の洪水の際は、過去の教訓を生かし、家具を2階に上げたため被害は少なく済みました。これを契機に地域で水害について考える機会を持とうと、高木地区を水害から守る会を発足させました。

今は、道路が舗装され、田畑が少なくなってきたため、水が川に集中し、短時間で水位が上昇します。素早い対応のためには、日頃の備えが大切になってくると思います。



昭和16